# テレビ用インナーイヤーヘッドホン　ATH-CK251TV

# 取扱説明書

audio-technica

お買い上げありがとうございます。ご使用の前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。
また、保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

## 安全上の注意

本製品は安全性に充分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。
事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。

| | |
|---|---|
| ⚠ 警告 | この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。 |
| ⚠ 注意 | この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。 |

### ⚠ 警告

- ●自動車、バイク、自転車など、乗り物の運転中は絶対に使用しないでください。交通事故の原因となります。
- ●周囲の音が聞こえないと危険な場所（踏切、駅のホーム、工事現場、車や自転車の通る道など）では使用しないでください。
- ●本製品は密閉度が高く、外部の音が聞こえにくくなります。
  周囲の音が聞こえる音量で、安全を確かめながらご使用ください。
- ●イヤピースは幼児の手の届かない場所に保管してください。

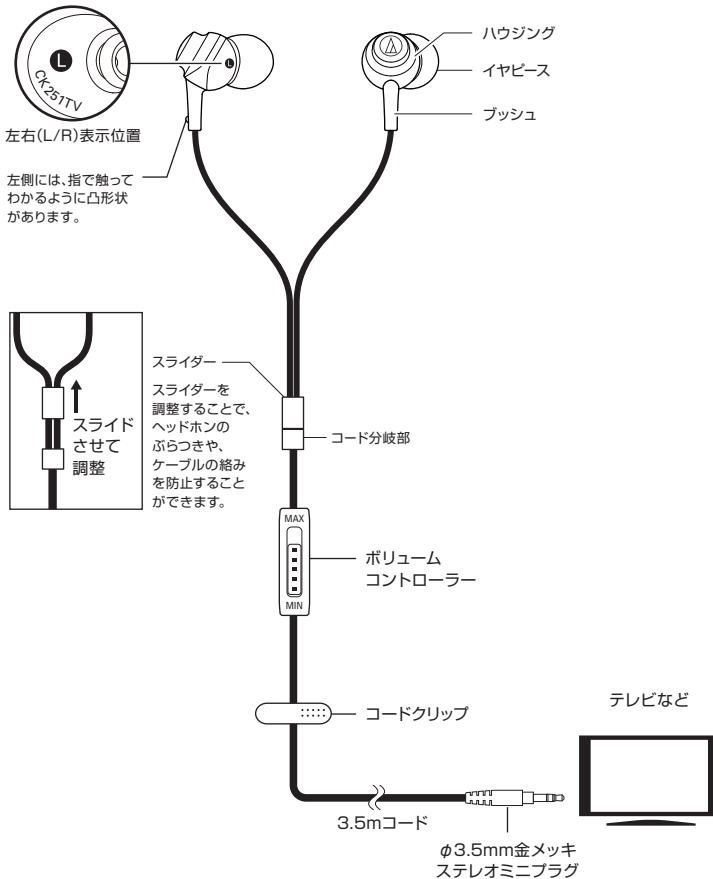
### ⚠ 注意

- ●本製品を使用中に気分が悪くなった場合は、すぐにご使用を中止してください。
- ●耳をあまり刺激しない適度な音量でご使用ください。大音量で長時間聴くと聴力に悪影響を与えることがあります。
- ●肌に異常を感じた場合は、すぐにご使用を中止してください。
- ●分解や改造はしないでください。
- ●ヘッドホンを耳から外したときは、必ずイヤピースが本体に付いているかご確認ください。
  イヤピースが耳の中に残り取り出せない場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- ●本製品は耳をふさぐ形状のため、蒸れによりかゆみなどを感じることがあります。
  その場合は一旦ご使用を中止してください。
- ●付属のコードクリップに指を挟まないようにしてください。けがの原因になります。

## 使用上の注意

- ●ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- ●交通機関や公共の場所では、他の人の迷惑にならないよう、音量にご注意ください。
- ●接続する際は、必ず機器の音量を最小にしてください。
- ●乾燥した場所では耳にピリピリと刺激を感じることがあります。
  これは人体や接続した機器に蓄積された静電気によるものでヘッドホンの故障ではありません。
- ●強い衝撃を与えないでください。
- ●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かないでください。
  また、水がかからないようにしてください。
- ●本製品は長い間使用すると、紫外線（特に直射日光）や摩擦により変色することがあります。
- ●本製品に無理な力を加えた状態で放置しないでください。変形するおそれがあります。
- ●コードは必ずプラグを持って抜き差ししてください。コードを引っ張ると断線や事故の原因になります。
- ●コードをラックや家具などに巻き付けたり挟んだりしないでください。
- ●φ3.5㎜ステレオミニジャックのヘッドホン端子以外の機器と接続する場合は、適切な変換プラグアダプターをお買い求めください。

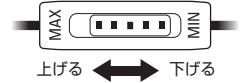
## 各部の名称と接続例

ご使用になる前に、下図を参考にヘッドホンの各部をご確認ください。

※未使用時やコードの長さを調整したい時は、付属のコード結束バンドを使用してください。

## 使いかた

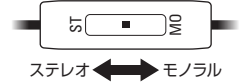
① 接続する機器の音量を最小にして、ヘッドホン端子に本製品を接続してください。
② 本製品の "L（左）" の表示側を左耳に、"R（右）" の表示側を右耳に装着し、イヤピースを調整します。
③ 接続している機器を再生し、音量を調整してください。
※ 接続する機器の取扱説明書もあわせてお読みください。

## ボリュームコントローラーの使いかた

手元で音量調整をすることができます。

※接続機器自体のボリュームを調整することはできません。
※電源不要で音量を絞ることができます。
　最小にしても消音にはなりません。

上下にスライドさせて、音量を調整してください。

## ステレオ /モノラル切換スイッチの使いかた

視聴するテレビやラジオに合わせて音声を切り換えることができます。

| スイッチ位置／音声 | 使用例 |
|---|---|
| ステレオ | ステレオ機器に接続してステレオで聞くとき |
| モノラル | ラジオなどモノラル機器に接続して両耳で聞くとき |

※音声切り換えスイッチ位置を「ステレオ」にしてモノラル機器と接続した場合は、左チャンネルのみ音が聞こえます。

## お手入れのしかた

長くご使用いただくために各部のお手入れをお願いいたします。
お手入れの際は、アルコール、シンナーなどの溶剤類は使用しないでください。

■本体／ボリュームコントローラーについて
乾いた布で本体の汚れを拭いてください。特にイヤピース接触面（右図参照）は、イヤピースを通して皮脂などの汚れが付着します。汚れが付着したまま使用すると、イヤピースが外れやすくなります。こまめに汚れを拭いてください。
なお、音が出る部分は繊細なため、触らないようにしてください。
故障の原因になります。



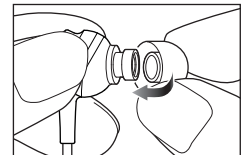
■コードについて
汗などで汚れた場合は、使用後すぐに乾いた布で拭いてください。
汚れたまま使用すると、コードが劣化して固くなり、故障の原因になります。

■プラグについて
プラグが汚れた場合は、乾いた布で拭いてください。
プラグが汚れたまま使用すると、音とびや雑音が入る場合があります。

※イヤピースのお手入れは、「イヤピースについて」→「お手入れのしかた」を参照ください。

## イヤピースについて

■イヤピースのサイズ
本製品は、4サイズのシリコンイヤピースXS、S、M、Lを付属しており、お買い上げ時はMサイズが装着されています。よりよい音質で楽しんでいただくために、イヤピースのサイズを換えて、イヤピースを耳の収まりのよい位置に調節してください。イヤピースが耳にうまく装着されていないと低音が聞こえにくいことがあります。

■お手入れのしかた
ヘッドホンからイヤピースを外し、うすめた中性洗剤で手洗いしてください。洗浄後は乾いてからご使用ください。

■交換のしかた
消耗したイヤピースを外し、新しいイヤピースを斜めから押し当てます。（図参照）内側を広げるように強く押し込み、奥までしっかり取り付けてください。
※イヤピースが外れにくい設計にしているため、取り付けがきつくなっています。

### ⚠ 注意

- ●イヤピースは汚れが付きやすいため、定期的に取り外しお手入れをしてください。
- ●イヤピースは消耗品のため、保存や使用により劣化します。嵌合がゆるくなるなどの劣化が見られた場合は交換イヤピースを販売店でお買い求めください。
- ●一度外したイヤピースを本体に付ける際は、確実に取り付けられているかを確認してください。
  イヤピースが耳の中に残ったまま放置すると、けがや病気の原因になります。

## テクニカルデータ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 型式 | ：ダイナミック型 | 質量 | ：約3.5g（コード除く） |
| ドライバー | ：φ8.5mm | プラグ | ：φ3.5mm金メッキステレオミニプラグ |
| 出力音圧レベル | ：100dB/mW | コード長 | ：3.5m(Y型*) ＊左右のコードの長さが同じです。 |
| 再生周波数帯域 | ：20～23,000Hz | 付属品 | ：イヤピース（XS,S,M,L）、コードクリップ、コード結束バンド |
| 最大入力 | ：200mW | ●交換イヤピース | ：ER-CKM55 (XS,S,M,L) |
| インピーダンス | ：16Ω | | （改良などのため予告なく変更することがあります。） |

**アフターサービスについて**
本製品をご家庭用として、取扱説明や接続・注意書きに従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間・規定により無料修理をさせていただきます。修理ができない製品の場合は、交換させていただきます。お買い上げの際の領収書またはレシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。


**お問い合わせ先**（電話受付／平日9：00～17：30）
製品の仕様・使いかたや修理・部品のご相談は、販売店または当社相談窓口およびホームページのサポートまでお願いします。
●相談窓口（製品の仕様・使いかた）0120-773-417
（携帯電話・PHSなどのご利用は　03-6746-0211）
FAX：042-739-9120　Eメール：support@audio-technica.co.jp
●サービスセンター（修理・部品）　0120-887-416
（携帯電話・PHSなどのご利用は　03-6746-0212）
FAX：042-739-9120　Eメール：servicecenter@audio-technica.co.jp
●ホームページ　（サポート）
www.audio-technica.co.jp/atj/support/

株式会社オーディオテクニカ
〒194-8666 東京都町田市成瀬 2206
http://www.audio-technica.co.jp


102440073　MADE IN CHINA